

蔚来汽車（ニオ） Inc ADR（NIO）

【セクター】 電気自動車（EV）

【市場】 NYSE

【企業概要】

中国の新興EV（電気自動車）メーカーで2018年に上場しました。量産車は、プレミアムSUVの「ES8」、コンパクトSUVの「ES6」、クーペSUVの「EC6」、フラッグシップセダンの「ET7」、中型セダンの「ET5」などです。いずれも高価格帯EVです。事業戦略の特徴はスタート時点からプレミアムEVに特化し、「電池交換式」や「車体のみ購入+電池はリース」の販売形態を採用していることです。プレミアムEV市場で確立したブランド力を生かし、今後は大衆車EVやスマートフォン事業も展開する予定です。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

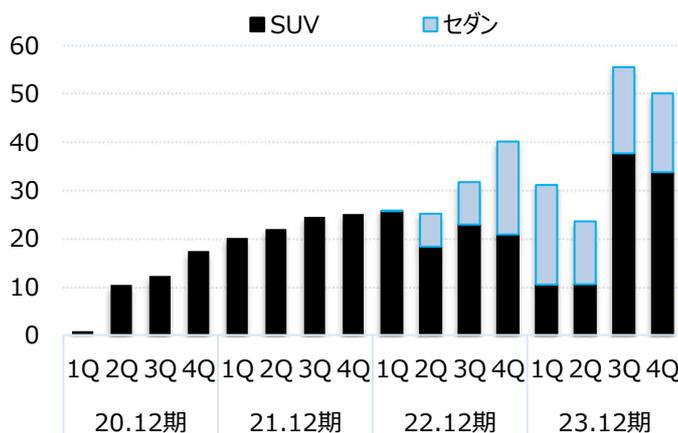
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.12期	49,269	-12,141	-7.32	0.00	15.7	-49.7	28.7
23.12期	55,618	-18,475	-10.87	0.00	13.3	-85.6	25.2
24.12期（予）	77,219	-11,937	-7.04	0.00	4.0	-106.7	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】

EV納車台数（千台、四半期ベース）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

自動車の粗利益率（%、四半期ベース）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

中国新興EVメーカーのトップランナーです。ただ、ここ2年は後進組の勢いが強く、ニオは競争に遅れをとっている感が否めません。新車種が少ないことや競争激化の中でも値下げを渋ってきたことが要因として挙げられます。挽回を図るため、同社は2023年半ばから販売戦略を転換。5月に売れ筋モデルの改良版、6月には全車種の価格を引き下げました。それ以降、販売は持ち直しました。とはいえ、他社より値下げ率が控えめだったこともあり、回復力は競合より劣っています。高価格帯の車種しかないことも不利な点と言えます。当面は、2024年下期に発売開始予定の中価格帯モデル「ALPS」の進展が注目ポイントです。「ALPS」でかつてのトップランナーとしての勢いを取り戻せるかどうか、ニオにとって正念場となります。

【見通し・注目点】

23.12期4Qは売上高が市場予想を上回りましたが、調整後EPSは予想を下振れました。自動車の粗利益率は11.9%で3Qより改善しましたが、市場予想（13.6%）に届きませんでした。24.12期1Qの納車台数ガイダンスは3.1万～3.3万台と低調で、市場予想（4.4万台）を下回りました。1-2月の納車台数実績は季節要因もあり、1.8万台にとどまりました。通期の自動車の粗利益率目標は15%～18%です。中価格帯の「ALPS」は3Qに製品発表、4Qに納車開始の予定です。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。